

議 長	局 長	局次長	副主幹	係長	局 員	担当者

奥州市議会産業経済常任委員会所管事務調査 会議録

【日 時】令和4年12月12日（月）13：10～15：30

【場 所】歴史公園えさし藤原の郷（事務調査は「お休み処えさし藤原の郷」会議室で実施）

【出席委員】飯坂一也委員長、高橋浩副委員長、菅野至委員、東隆司委員、及川春樹委員、
瀬川貞清委員、小野寺重委員

【欠席委員】なし

【傍 聴 者】なし

【説 明 者】伊藤 嘉啓 江刺開発振興株式会社常務取締役
佐藤 克也 江刺開発振興株式会社総合広報室長兼セールス推進室長

【担 当 課】門脇 純 商工観光部商業観光課長
高橋 直哉 商工観光部商業観光課観光物産係長

【事 務 局】菊池 七重 総務係長

【次 第】

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 調 査
えさし藤原の郷の現状と課題について
- 4 協 議
(1) 閉会中の所管事務調査について
(2) その他
- 5 閉 会

【会議要旨】

1 開会

（高橋副委員長） ただいまから、えさし藤原の郷の現状と課題についての調査を実施いたします。委員長よりご挨拶をいただきましてから、以降の進行につきましても委員長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

2 委員長挨拶

（飯坂委員長） お集まりの皆様、こんにちは。産業経済常任委員会の所管事務調査にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。また、えさし藤原の郷様につきましては、貴重な時間、お忙しいところお時間を割いていただきまして、本当にありがとうございます。本日は、風こそ冷たいものの天気が良くて、本当にいい日であったなと思っております。コロナ禍で厳しい状況が続いているわけですが、これまでの状況、今の状況等を教え

ていただきながら、今後のことなど忌憚のない意見交換ができればな、そんなふうに思っています。活発な委員会になることを期待申し上げて、挨拶とさせていただきます。本日は、よろしくお願い申し上げます。

それでは、出席委員は7名であります。続きまして、3の調査に早速移りたいと思います。本日の調査は、江刺開発振興株式会社の伊藤嘉啓常務取締役と佐藤克也総合広報室長兼セールス推進室長からご説明をいただきます。また、当局からは、門脇純商工観光部商業観光課長、高橋直哉商業観光課観光物産係長に同席いただいております。本当にありがとうございます。

それでは、説明の後に質疑等も行いながら、調査を進めて参りたいと思っております。それでは、えさし藤原の郷の現状と課題について、説明をお願いいたします。

3 調査

(1) 事務調査

(伊藤常務取締役) ご紹介いただきました、伊藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。まずもって、本日はレストランで食事をしていただきまして、ありがとうございます。議員の皆さんには常日頃、えさし藤原の郷のことにしまして、ご指導いただきまして、ありがとうございます。えさし藤原の郷は、平成5年の4月にオープンしてまして、今年の4月で29年を迎えました。今まで、のべ人数で480万人の方々に入場していただいております。

今日の説明の内容について、私の方から若干説明させていただきますが、新型コロナウイルス感染前の2019年になりますが、約10万6,000人ほどの入場がありました。そのうち2万人がインバウンド、海外からの観光客でございました。2020年、何とかですね、インバウンド、2万人来ましたので、2万5,000人なり3万人を目指して頑張ったんですね。1月、2月の上旬までは順調に進んでおりまして、4,000人ぐらいになりました。ところが2月の中旬から、新型コロナウイルス感染症が感染し始めまして、当園の方に影響が出始めました。2月の後半から、ほとんど団体観光客、インバウンドを含めましてキャンセルが相次ぎました。キャンセル数で言いますと、大体4,000人ぐらいです。ですから3月以降は、団体がゼロという状況で、どうしたらいいかなというふうに会社としても悩んだのですが、まずは岩手県、または近隣県を対象とした誘客をしようということで努力しました。お陰をもちまして、2020年の秋は教育旅行がかなり増えまして、従来ですと3,000人ぐらいなんです。ところが2020年ですと、資料にもございますが、1万1,923名となってございます。4倍ぐらいに増えました。理由といたしましては、新型コロナウイルス感染拡大になったことによって、教育旅行が増えたというのは、旅行先、方面の変更をしたのですね。ですから、本来であれば東京方面に行く教育旅行が、岩手県ないし東北管内で収まったということで、人数が増えたということです。2021年も同じような状況が続きまして、さらに教育旅行が増えております。資料にございますが、1万4,328名というふうな人数でございまして、かなり助けていただきました。おかげをもちまして、資料にもございますが、2020年、2021年共、何とか6万人を確保したという状況でございます。今年度に入りましてやはり、新型コロナウイルス感染が継続してまして、同じようなパターンではちょっとこれは難しいなというふうに思ったんですね、国内団体も難しいですし、インバウンドも難しいです。では、どうしたらいいかなということを考えながら、まず市民を対象にしたものを、少し力を入れていこうということで、ライトアップを毎回やっていましたので、少し力を入れました。藤棚のライトアップは今年初めてやりました。5日間でしたが、約4,000人ほどの入場者がありまして、かなり賑わいました。多いときは1日で1,700人が来たんですね、1時間半の間に1,700人ですから、かなり密度が高くて、駐車場は満杯で、途中で帰った人がいたんですね。駐車場に入れないので、明日来ようということで帰った人もいたというような、かなりの賑わいでございました。

秋の紅葉のライトアップも同じように、去年の大体1.5倍で7,700人ほど来ております。こ

れも混んでいる時は1,200人ぐらい来ていましたので、藤棚のライトアップとまではいかなかったのですが、かなり増えてきたというふうに認識しております。

ですから、今年度、こういう結果でございましたので、2023年度におきましても、何とか定着したライトアップ等々に少し力を入れていきたいなと思ってございます。

インバウンドでございます。インバウンドもですね、資料にございますが。

(飯坂委員長) もう説明に入っているんですね。

(伊藤常務取締役) 先ほどお話ししました2019年が約2万人という、この資料にございませんが、2018年は1万人ぐらい、2017年が4,000人ぐらいで、その前が2,000人ぐらいですから、倍倍倍と増えてきて、2019年が2万人というような数字になったということでございました。

今年は無理かなあというふうに思ったのですが、12月に入りまして香港からファンがございまして、少しずつ回復しているということで、インバウンドの方にも、来年は少し力を入れていきたいなと思っております。詳細については、この後、担当室長から説明していただきますが、議員の皆さんにおかれましては今後もえさし藤原の郷の郷々において、ご支援いただきたいと思います。

(飯坂委員長) 佐藤克也総合広報室長。

(佐藤総合広報室長兼セールス推進室長) ご紹介いただきました、藤原の郷の佐藤でございます。詳細につきまして、ご説明をさせていただきます。着座にて失礼いたします。

では、(1)番からご説明をさせていただきます。

えさし藤原の郷の入場者数ということで、コロナ前から現在の状況になります。かつこ1番、入場者数、2019年は個人の入場が4万5,323人、団体が4万887人、共通券が5,384人、無料入場が1万4,235人ということで合計10万5,829人でした。2020年は、個人が2万3,610人、団体入場が2万2,933人、共通券が2,275人、無料入場が1万2,171人ということで、合計が6万989人。2021年、個人入場が2万6,284人、団体入場が1万8,480人、共通入場券が5,846人、無料入場は1万18人、合計6万628人の入場です。それで2022年、今年になりますが、11月までの状況になります。個人入場が4万6,457人、団体入場が1万41人、共通券入場が6,670人、無料入場が8,705人ということで、合計で7万1,873人となっております。

(2)番、えさし藤原の郷の状況と方向性ということでございます。

えさし藤原の郷の入場者は、11月末で約7万2,000人と、昨年の5万8,426人と比較して増えておりますけれども、新型コロナウイルスの感染症の影響によりまして、例年と比較し、大幅に減少しております。しかしながら、今年度から公開いたしました藤のライトアップ、5日間で4,031人、源平ホテル鑑賞会は1,829人、昨年は1,444人でした。紅葉ライトアップは7,701人、昨年は5,089人でございます。と、入場者が増加していることから、今後も夜間入場、ライトアップのイベントに力を入れてまいります。

また、藤原の郷の強みということで、平安時代の建物、歴史文化、園内の自然庭園を生かした観光客の誘客に努めて参ります。

続きまして(3)番、教育旅行者等の推移になります。

2019年、教育旅行47件3,251人、小学校が1,272人、中学生が1,449人、高校・専門学生が530ということで、3,251人の入場総数です。

2020年になりますと、件数としては228件、人数が1万1,923人。内訳で小学校が6,832人、中学生が3,641人、高校・専門が1,450人ということで合計1万1,923人でございます。昨年、2021年は件数が259件、人数が1万4,328人ということで小学生が5,485人、中学生が6,469人、高校・専門が2,374人、合計1万4,328人のトータルになります。

そして今年、こちらも11月までの状況になりますが、件数が183件、人数が8,744人、小学生が4,045人、中学生が4,300人、高校・専門が410人、合計で8,755人となっております。ちょっとずれております。

(4)番、県別の入場件数になります。

北海道が8件、青森40件、岩手県が52件、秋田県が18件、宮城県が26件、福島県が8件、山形県27件、新潟県1件、茨城県が1件、大阪府1件、岡山県1件ということで、合計で183件となっています。

次のページになります。

大きな2番といたしまして、イベントの開催状況につきまして、(1)番、イベントの開催状況をコロナ前の2019年、令和元年と、本年、令和4年、2022年の開催状況の比較になります。

春イベントといたしまして、令和元年は鹿踊りの定期公演、それから江刺の語りべ、春爛漫ライトアップ、さつき展、ドラえもんショー、アンパンマンショー、兜を作ろう、コスプレ撮影会、お茶会、ハローキティのトリックアート、それからトリックアートの写真コンテストを開催しております。

本年、令和4年は、鹿踊りの定期公演、江刺の語りべ、さつき展、アンパンマンショー、兜を作ろう、復興ポスター展、藤のトンネルの公開、ライトアップと併催しております。それからトリックアートの写真コンテストを開催いたしました。

夏イベントになります。

令和元年につきましては、鹿踊りの定期公演、江刺の語りべ、源平ホテル鑑賞会、ゲゲゲの鬼太郎の世界展、ウルトラヒーローとの握手会、和紙ちぎり絵の展示と体験、浴衣茶会、子供絵画コンクール、七夕飾りを作ろう、砂金採り体験、夏休みこども学習会、コスプレ撮影会、百鹿大群舞。百鹿大群舞は残念ながら雨天中止でございました。

本年、令和4年の夏イベントは鹿踊りの定期公演、江刺の語りべ、源平ホテル鑑賞会、ホテル展、飛んでる昆虫展、ムシマルシェ、七夕飾りを作ろう、砂金採り体験、コスプレ撮影会、百鹿大群舞、本年も、残念ながら雨天で百鹿大群舞は中止でございました。

続きまして秋のイベントです。

令和元年につきましては、鹿踊りの定期公演、江刺の語りべ、菊花展、それから園内を走ってみようということでマラソンイベントを開催しました。それからアンパンマンショー、お茶会、コスプレ撮影会、紅葉ライトアップでございます。

令和4年は、鹿踊りの定期公演、江刺の語りべ、マイハピネスフォトコンテストということで、しあわせを紡ぐ写真展。それからナイトヨガ、コスプレ撮影会、紅葉ライトアップ、それから紅葉ライトアップの開催に伴うインスタグラムフォトコンテストも合わせて開催いたしました。

続きまして冬イベントであります。

令和元年につきましては、郷土芸能の新春公演、お正月の遊び、そりパークの開設をいたしました。

本年、令和4年につきましては、ちびっこそりパークを開設予定でございます。

続きまして、次のページ、(2)番、体験の開催状況になります。

①番といたしまして、奥州藤原氏顕彰体験ということで、紺紙金銀字一切経の写経体験、こちら有料になります。もう一つが、奥州藤原氏の黄金文化を支えた砂金採り体験、こちら有料でございます。

②番、平安貴族・武士体験ということで時代衣装の着付け体験、こちら無料で体験できます。正式の十二単、束帯の着付け体験、こちら有料になります。平安旅姿壺装束での園内散策体験、有料。平安装束の七五三プラン体験、こちら有料、子供大鎧着付け体験、こちら有料になります。弓矢体験、これは無料になります。

3番、その他でございます。

平安時代の遊び体験ということで、すごろく、投壺、貝合わせ等、無料で体験していただいております。トリックアートの撮影体験、こちら無料でございます。ARアプリを活用いたしました妖怪探し体験、無料でございます。ハマグリ絵付体験、こちらは有料になります。鯉の餌やり体験、有料でございます。ゆめひら号ということで、今日この後、園内を

ご覧いただく際に乗っていただきますけれども、周遊バスを運行しております。こちらも有料でございます。

(3)番といたしまして展示、企画展の状況です。ホテル展、それからインセクトワールド、夏の昆虫大作戦、重複しますがマイハピネスフォトコンテスト「しあわせを紡ぐ写真展」という形で開催をしております。

大きな3番になります。インバウンドの現状につきまして、(1)番といたしまして、外国人観光客の入場者数、2019年、欧米系が290名、アジア系が1万9,629名で、そのうち台湾からが1万5,071名で、合計で1万9,919名の入場でございます。

2020年、欧米系が83名、アジア系が3,959名で、うち台湾が3,054名、合計4,042名です。

2021年は欧米系が20名、アジア系が152名、台湾はゼロでございます。合計で172名になります。

本年、2022年は欧米系が17名、アジア系が227名で、うち台湾はゼロです。合計いたしました244名になります。本年、2022年分は11月までの状況になりますので、12月ちょっと増えている部分もあります。ご了承ください。

(2)番、外国人観光客の誘客対応ということになります。

花巻空港のチャーター便の歓迎行事への参加ということで、現在新型コロナウイルス感染症が拡大しております、この歓迎行事も、延期、未実施にはなっておりますけれども、コロナ前には、当番制で空港に行きまして、歓迎行事に参加しております。それから、台湾旅行者への訪問セールスということで、誘客実績のある花巻温泉株式会社の協力により、平成27年、2015年に初めて訪問セールスを実施いたしました。その後も、花巻温泉と連携し、実施してきておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大によりまして、2020年から訪問セールスを中断している状況でございます。しかし、今年、12月中旬から訪問セールスを再開予定でございます。実は15日、今週の木曜日から、台湾にセールスを再開することで、私が出張する予定でございます。

それから、コロナ中は訪問セールスができないということから、SNSを活用し、台湾、香港、タイへのPR活動を実施しております。現地旅行会社とのホットラインを維持するためでございます。

それから、先月11月19日に台湾のエージェントが来県されましたので、花巻温泉におきまして商談会が開催されましたので、こちらの方にも参加をさせていただきました。

それから、大きな4番、観光ルートの傾向につきましてです。一般団体につきましては、世界文化遺産平泉に立ち寄った後に当園を経由して、猊鼻溪や遠野などを周遊して花巻温泉郷、つなぎ温泉郷等に移動するパターンが見られます。

教育旅行団体につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大以前は、仙台圏から小学生を主に多くご来園いただいておりますが、コロナ禍中は方面を変更せざるをえない状況下ということで、岩手県内をはじめ東北管内の小中学生が多く来園されております。目立ったところでは、震災学習などを取り入れて沿岸部を行程に入れる団体も見受けられております。

最後5番、大きな5番になります。市への要望等につきましてということで、これからの課題も踏まえてでございますが、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた誘客促進、それから、世界文化遺産平泉等との連携、県南地域の観光地との連携、最後に、インバウンド観光の対策強化、特に台湾、香港、タイ、ここの国々との対策強化を課題として今見据えております。私の方からは以上になります。

(飯坂委員長) 丁寧なご説明をいただきまして、本当にありがとうございました。それでは、以上で説明が終わりましたので、質疑を行ないたいと思います。質問のある委員につきましては、挙手の上、お願いいたします。

(飯坂委員長) 及川委員。

(及川春樹委員) (3)の教育旅行者等の推移のところなんですけれども、県内なり県外の団体の

日程、こういったスケジュールで、例えば2泊3日の中日であるとか、あと宿泊先、先ほど花巻温泉が宿泊先という話もございましたけれども、大体、県内に留まっているのか、また違う地域に移っているとか、もしわかれれば。あとはインバウンドのところですが、以前は多分団体客が多かったのではないかと思っていました。少しずつ少人数化してきている、外国人観光客も、国内の有名観光地だけじゃなくて、もうちょっとその地域の細かいところを見るような傾向が見られるというのは聞いたことがありまして。あとは、産業経済常任委員会で熱海に視察に行ってきたのですが、外国人受入の宿泊施設が、部屋の中にシャワーがあった方が、受けがいいという話があったので、こちらで把握していることがもしあれば、例えば、県内だとこの辺が対応しているとか、多分、花巻温泉は対応していると思いますが、そこに対応しているような傾向が見られるか。あとは、特にその円安で外国の方々が入って来ているような話ですけども、県内、またはこの界限ではその傾向が同様に見られるか、お伺いします。

(飯坂委員長) 伊藤嘉啓常務。

(伊藤常務取締役) 県内の日程ですが、ちょっと把握してはございません。基本的に北海道ですと、北から順々に回ってくるということがありますが、その逆のパターンもあります。南の方から上がってきて、うちの方に寄っていただいてそれから、その泊まり先としては沿岸部がですね、本当は復興支援の関係で、災害の学習ということでいくんですが、沿岸地域はホテルがないんですね。無いので、途中で寄るといえば、沿岸地域を視察した後は、花巻温泉とかつなぎ温泉とか、そちらの方に行って泊まるという傾向は多いです。

インバウンドにつきましては、うちの方はどちらかというと今までは、団体、ツアーの方々に来ていただいていたいました。確かにここに来て、個人で、この間あったのは、レンタカーを借りて来た、4、5人で。そろそろこういう時代なのかなというふうに思っております。まずは、うちの方としては台湾のエージェントさんとの協力体制をまず密にしながら、人数的には多分、大きなバスで半分ぐらいですね。大体20人ぐらいですね。20人から30人ぐらいの規模で来ます。コロナの関係もあるかと思いますが、それぐらいのツアーが多いですということになっておりまして、これからは多分、委員さんがおっしゃるとおり少人数化になると思っていますので、いかにして宿泊先からレンタカーを借りて、こちらに来るようなシステムを作っていけばいいのかなという課題ですけども、やっていきたいと思っています。

あとは、宿泊施設のシャワーとか、具体的には分からないのですが、例えば、花巻温泉さんの方では、大規模に施設を改修しています。和室から洋室に、人数も一つの部屋に4、5人入るのじゃなくて、2人とか3人とか、大規模な改修をして、ほぼ来年の2月ごろに終わると思いますけれども、そういうインバウンド対策をしています。

円安の関係で、もちろん日本に来る場合、かなり経費が安くなりますので、それに伴って来る外国人の方は多分増えるかなというふうに思っておりますが、どちらかといえばうちの方、団体がまだ多いものですから、なかなかその辺の恩恵が受けられないという状況がありますし、欧米系があまり来ないんですね、ですから、観光地としてのモラルはいいですし、台湾の方々も日本人と同じように礼儀正しくて、その辺で食べたり、そういうことはしないです。若干、中国圏の方々については、ちょっとまだ、という方もありますが、それでも、ちゃんとルールを守って観光していただいているという状況です。

(及川春樹委員) 市内の宿泊施設、ビジネスホテル等の個人利用を対象にしたような施設との連携や情報交換みたいなのはあるのでしょうか。

(飯坂委員長) 伊藤常務。

(伊藤常務取締役) 確かに、ホテル旅館業組合には奥州支部というのがあるんですよね。そちらと具体的な話はしてはおりません。ただ、薬師堂温泉と話をして、例えば、ホテルの鑑賞会がありますけど、というように宣伝していただきながら、宿泊の方にパックとして入れていただくような、例えばうち方の入場料はタダで、そういう工夫はしている旅館もありま

すし、観光協会の会長さんもホテルをやっていますので、会長さんともいろいろ話をしながら、お互いに協力し合いましょうよという話はしております。ただ個人の旅行者が増えれば、一般のホテルも利用者が多分増えると思うんです。その辺をやっぱり詰めていけば、もう少しホテルと観光地の連携が出来ると思います。

(及川春樹委員) ありがとうございます。

(飯坂委員長) 瀬川委員。

(瀬川貞清委員) 瀬川貞清といいます。ちょっと、資料の見方と、簡単な基礎的なことを教えてください。

入場者数のところに出てきます、共通券入場とか無料入場という中身、どういうものなのかというのを教えてください。それから、インバウンドの関係だと思えますけれども、1階の天井に付けた案内版がありましたが、あそこに、日本語の下に、東南アジア系の文字がありましたけれども、あれはどこの国の文字なのでしょう。で、私はタイだということで見ただけですけれども、あれを特別に表示する何か特徴があるのでしょうか。それからインバウンドは今大変な状況だというのは理解しまして、それをこのような形で、地域住民をターゲットに、ライトアップ等の企画を考えられたということで、私も、今年は来ませんでした、去年は来ました。それであと私は、この間、いろいろ毎回資料を送付していただいておりますが、興味を持ちましたのは、なんていう表題でしたかね、戦国のゲルニカという大坂夏の陣の図屏風、あれの著者の方を呼んで、そして実際その図屏風も、ここに持ってきてもらって、ちょうどその前後に、あの本を読んでいたのが大変興味を持ったし、ここで、その著者の講演を聞いたのと、実際の図屏風を見ることができたというので、大変私は、認識が深まったんです。そういう点で、まあちょっと今の時期、インバウンドが入らない苦労の時期ですが、そういう、地域住民が1回行ったことのある人も興味を持たれる企画というのを引き続きもってもらいたいなあ、もし何か考えていることがありましたら教えていただきたいと思います。

(飯坂委員長) 伊藤常務取締役。

(伊藤常務取締役) 私が分かる部分は回答しますので、補足は室長にさせていただきます。

まず1ページ目の個人入場、団体入場、共通券入場、無料入場ということで、確かに、すいません、もっと細かく書けばよかったのですが、共通券入場といいますのは、藤原の郷と郷土文化館と2か所行った場合の共通券がございまして、別々に行くよりも安く入れるということでございます。大体最初に来るのは、藤原の郷の方に来るんですね。その際に、郷土文化館の方もPRして、共通券の方で入ってくれという話をしています。無料入場といいますのは、市内の小中学校は無料ということですし、あと小学校就学前の方々は無料でございます。あと、修学旅行、団体旅行の添乗員とか、そういう方も無料です。あと、先ほど話が合ったのですが、そりパーク、ちびっこそりパーク等についても無料です。冬の期間に市民の方々に、何か親しんでもらいたいということで入っていただければ、という格好になっております。

それから、インバウンドは、大変な時期でございますが、若干攻めていきたいということもございまして、表示物については、英語、中国語、台湾を含めた、も入っていますし、タイも入っていました。園内にはそういう表示はしているのですが、今はアプリがございまして、アプリの中で、入力していただきますと、それが来た方々の国の言葉で、各施設を案内してもらうというのがありますのでそれを使っておりますし、あと多言語ペンという、これは市の方から補助をいただいて購入したのですが、例えばこういうパンフレットになぞると、英語なりその国の言葉でしゃべってもらうというのがありますから、園内の案内については、それがありますので、少々対応はできているのかなというふうに思っております。

あと、大坂夏の陣、わざわざ来ていただきまして大変ありがとうございました。確か、大阪城の館長さんも来ていろいろお話ししたのですが、様々提供していただいて見せたという

ことは、いいことだなというふうに思っておりますし、今後のイベントについても、企画展、なるべくならば市民の方に来ていただけるようなことをしたいなと思っております。例えば、水沢江刺駅の大瀧詠一さんの展示ですね、あれも、うちの方でやったんですが、結構多く来たんですね、わざわざ見に来たという方もいましたし。そのようなことを、観光物産協会さんとタイアップしながら、本当に興味を持ってきてくれるようなものを企画していきたいなと思っております。まだ、23年度については検討中で、決まっておりませんが。

(瀬川貞清委員) ありがとうございます。

(飯坂委員長) 東委員。

(東隆司委員) 私が質問するのもしかかと思うところでございますが、産業経済常任委員会の各委員も分からないことがあるかもしれないので、あえて何点か質問します。市の幹部職員もおりますので。

1点目は、5番の市への要望等のところで、ウィズコロナ以下3点挙げられています。今お話があったとおりコロナで大変ダメージを受けたというのはご案内のとおりでございます、まさにこのV字回復に向けた取組みを、藤原の郷さんがなさりたいということは、そのとおりでございます。もしよろしければ、この三つについて、もう少し具体的にこんなことをお願いできれば、というのがあればお聞かせいただければ。特に真ん中の世界遺産連携なんかも、組織としては、ご案内のとおり、平泉世界遺産連携推進実行委員会がありまして、3市町が構成員となって、首長が、平泉の町長さんをトップとする組織になっております。これもやっぱり大事なところだなということもありますし、外からお客さんを引っ張ってくる、その辺のところという大きいということもあって掲載されているものというふうに、思うところでございます。もし何かこう、ご提案といいますか、要望があれば教えてください。

それからあと、2点目はDMOですね、DMOについて、どのようなお考えというか、要望でも結構ですが、もしあればお聞かせいただきたいなと。

3点目は、今日の調査とは違うとすれば、場違いな質問になるかもしれませんが、指定管理業務をこの間ずっとやっていただいているわけでございますが、これに関しての課題と言ったらいいんでしょうか、何かこう思うところといいますかね、何かあればお聞かせいただければ、よろしくお願いします。以上3点でございます。

(飯坂委員長) 伊藤常務取締役。

(伊藤常務取締役) お答えします。DMOについては、佐藤室長からお話していただきたいと思います。

まず、市への要望3点ありました。

1点目につきましては、コロナと一緒に観光を進めていくしかないのかなということです。いかに、何と言いますかね、来る方々が、ウィズコロナをちゃんと理解していただいて、例えば、マスクを取っている方がいました、やっている方がいました、と様々なんですよ。ですから、その辺は国の方策だと思いますけれども、そういうのははっきりして欲しいと、外のうちのような施設があれば中ではマスクをして欲しい。外を歩く時はマスクをしなくていいとか、そういうのがちゃんと明確にしたらええ、もう少し楽しく過ごせるのかなというふうに思っておりますし、今まで、消毒から何から、かなり規制があったんですよ。その辺がどういうふうになってくるのかというような、もちろん我々としては、しないよりはした方がいい、徹底的にやっていますけれども、何て言いますかね、その辺の指針みたいなものを出してもらえればいいのかと思うたり、各観光地において、ある程度統一した対策といいますか、そういうものを指示していただきたいなというふうに思います。

例えば、飲食店であれば飲食店の方で指針を出しておりますし、博物館は博物館で、そういう指針を出しておりますし、この観光地は、なかなか分野でというのがあろうでないんですね。ですからその辺を明確にしていれば、もう少し。

世界文化遺産については、県南地域の二市一町の中で、今多分進めていると思いますので、その辺は市の方には、もう少し連携を取りながらやっていただければな、というふうに思っております。

我々も中尊寺の方にはおじゃましたり、ご挨拶したりしていますが、やはりなかなか壁があるっていいですか、若干あるんですね。ですから、その辺を取り除くのはやっぱり、行政さんだともう少しスムーズにいくのかな、というふうにも感じていますので、今までもちゃんとやってもらっていますよ、やってもらっていますが、さらに奥州市さんにやっていただければなと思っております。

インバウンド観光については去年、一昨年と奥州市さんには台湾にも行っていただいて、様々な事業展開をしていただいたということもございます。そういうことがありましたので、2019年にかなり多かったということがありますので、今後においてもコロナが落ち着いた段階で、台湾、タイ、香港等々についての、市としての方策といえますか、について考えていただいて、うちの方にも指導していただきたいと思います。

あとは具体的に指定管理の関係でございますが、指定管理料については、ちゃんと積算して指定管理料についてはそのもらって、といえますか、その指定管理料の中で企画しておるというふうに考えておまして、今は燃料費等の高騰が一番大きいんですね。そういうふうになったことに対しても、市の方では考えているようですが、私どもといたしましてはなるべく市の方には迷惑をおかけしたくないというふうに考えておまして、当初、協議しました指定管理料の中で何とか維持していきたいなというふうに努力はしております。

(飯坂委員長) 佐藤総合広報室長。

(佐藤総合広報室長兼セールス推進室長) DMOということで、地域づくり法人的なという部分は。

(飯坂委員長) 東委員。

(東隆司委員) 例えば、今市の方でも課題というので、つくるのかつくらないのか。先日、さっき熱海の話がありましたが、熱海型DMOということで、高橋係長も同行して視察をしてきました。私、個人的には非常に参考になったということで、奥州市にもいいやり方を勉強したな、と私自身は思っていました。なので、佐藤室長が思うDMO、もしDMOを奥州市につくるとするならば、藤原の郷さんとすれば、どんなふうな形で関われるか、とか、じゃなければ、こういうDMOいいんじゃないかねとか、何かそういったことがもしあれば、希望でもいいし、思うところがあれば、ちょっとお話いただければな、ということです。

(飯坂委員長) 佐藤総合広報室長。

(佐藤総合広報室長兼セールス推進室長) 参考になるかどうかあれなんですけれども、藤原の郷は一観光施設であるがゆえなので、DMOをそこで発足して、やるとなると、ちょっと人的な要因とかがあつたりするので、おそらく、今の状態では難しいのかなあというところがありますので、おそらくどこがいいのかという部分は今ははっきりとは言えないんですが、観光物産協会的なところが音頭を取って、市内のなんだろうな情報を集約して、そこで長けた人が、こういうコースを作ったらどうだとか、こういう観光のコンテンツを磨き上げたら、もっと通過型よりは、滞在型に持っていけるんじゃないかというような話、何だろう、検討材料というか、そういうふうなのが、私的には望ましいのかなあって、国内にも限らず海外向けにも、出来るのかなという、すいません、ちょっと答えになっているかどうかですが。

(飯坂委員長) 東委員。

(東隆司委員) ありがとうございます。抽象的な質問で惑わせてしまって、すみませんでした。先ほどの常務さんのお話ですと、薬師堂温泉さんと夜の部をここでやることによって宿泊させると、つまりお客さんを囲うという非常にいい取り組みだと思いました。さらには今、奥州市観光物産協会の菊池会長ともお話をなさっているということで、私とすれば、それが具体的な商品になって、さらには、観光物産協会なんかがそういう商品をつくって売るとい

ような形になってくると非常にいいのかなというふうに、思っではおりましたが、この辺もやっぱりその進められることは非常にいいことだなと。昨今の観光業界の常識としても、どちらかという、施設に昼間来てもらって、通過型でいなくなるというよりは、夜を強化することになると、移動が制約されるというふうな流れがいいというふうに言われておりました、その点、たまたまインバウンドがなくなってしまって、苦肉の策ということもあったんでしょうけれども、市民の皆さんに開放するという主眼でやったことが、実は結果とすれば、外から見ると、魅力ある商品だったよと、こういうことだと思うんです。私も藤のトンネル、それから紅葉のときも来ましたが、非常にすばらしい、特に紅葉はもう、前のこの確か部長さんだかが、円通院、松島に負けず劣らずだと。かなり豪語なさってですね、内心、本当かと思いながらも、やっぱり水面に映ったあそこは素晴らしいです。

ああいうことをもっと伸ばして出来れば、十分に夜の魅力をですね、その辺をぜひ進めてもらって、市もその辺りを応援していただければいいのかなと思ってお話をお伺いしました。

あとは最後は自分の勝手な持論の展開でしたけれども、面倒な質問をして申し訳ございません。お詫びを申し上げて、私の質問は終わります。

(飯坂委員長) 伊藤常務。

(伊藤常務取締役) 貴重なご意見ありがとうございました。

その通りですね、ライトアップ、夜の部をいかにして、行うかなということで考えていまして。団体旅行も4時半頃に来ていただければ、うちのライトアップを見て、それから、例えば、花巻温泉であれば4、50分、市内であれば15分20分で着けますので、それをうまく推進できないかなというふうに思っています。そうすれば先ほど言ったように、市内のホテルにも泊まっていただける、うちの方の観光も入っていただける、というふうになりますので、これについては、今後も進めていきたいなと思います。

さっき、紅葉のライトアップにつきましては、期間が長いんですね、藤ですと5日間、短かすぎてですね、一斉に咲いた時に見せる、ところが紅葉ですと、結構長い、1か月ぐらいやっていますから、その辺について、例えば最初については少し緑が濃いので、少し色のついたライトを使って見せると、本当の見ごろの時期についてはもうそのものを見せると。毎週来ることによって、何て言いますかね、ライトアップが変わっていきますよ、ということも一つの売りになるのかな。来年はそういう、もう少しね、力を入れてやっていきたいなと思っています。

(飯坂委員長) 副委員長。

(高橋副委員長) それも関連してですね。先ほどの資料にもありました、いろんなイベントをたくさん考えられて、一生懸命頑張っているんじゃないか、というのを感じます。

それとあとライトアップ等もとても人気があって、利用者数も多くなっているということも、いいことだなあと思っています。

それと、前にちらっと聞いたんですけども、何かテレビのコマーシャルかなんかで取り上げていただいたときの、その反響っていうかやっぱりかなり一気にきたというようなことを伺いました。そういうことを考えますと、もちろん営業セールスはもちろん大切なんですけど、うまくそのメディアを使ったコマーシャルというの、とても有効なのかなと考えます。

今後、例えば、もちろん紅葉、春の花の時期のライトアップ、とてもいいことだと思いますし、これからは雪、雪なんですけど、雪で何もないんですけど、そこをまた何かプロジェクションマッピングする等、それはそれで非常にロケーションがいいのかなということも考えます。

ですからそういう、これからのコマーシャル、そういうことも積極的に何かを考えていただければと思うのが1点と、あともう一つは、例えばイベントの中でなんですが、どうしてもこの園内の中でのイベントなんですけれども、ここに集まっていただいてここから例え

ばですけれども、宮沢賢治、種山高原の星座の森とかございます。宮沢賢治の足跡をたどるような、例えばイベントの企画とか、そういうことも、何て言うんですかね、藤原の郷の中だけのイベントではなくて、藤原の郷に来ていただいてここから発信する、どこかに出ていくようなイベントの企画というのも今後あるのかなあというところも含めて、ちょっとご提案を含めて質問したいと思います。

(飯坂委員長) 伊藤常務取締役。

(伊藤常務取締役) 貴重なご提言ありがとうございました。

コロナ禍におきまして、経費のこともありますし、なるべくテレビについては控えさせていただきました。テレビというのは結構高いんですね、金額が。おっしゃるように高い。ですから、出来ればマスコミの方々の協力を得ながら、なるべくお金をかけないでPRしていただくというのは、やってきました。

今年の4月に、めざましテレビ、全国放送、フジテレビですね、めざましテレビに藤のライトアップがちらっと映ったんですね。それがすごく大きかったんです。ですから、やっぱりテレビを使ったPRは必要だなというふうに思っております。

ですからどこのイベントに使うか、ある程度決めて、毎回やりますとかなりお金がかかりますので、決めてやっていきたいなと。ですからマスコミの利用については、テレビの利用については今後、少し積極的にやっていきたいなというふうに思っています。星座の森と藤原の郷の連携については、まさに来年から考えています。星座の森と藤原の郷のセットで周遊できないか、藤原の郷を見た場合に次は泊まる場所を、星座の森に泊まることも可能ではないか。6人×8、48、50人ぐらい泊まりますので、料金もそんなに高くないですから、修学旅行を小さな学校をターゲットとして、学習もできますし、そういうこともやりたいなというふうには考えております。ちょっとやっぱり離れているものですから、なかなかすぐには浸透しないのですが、時間かければ少しずつ浸透していくかなと思っています。

(飯坂委員長) 副委員長。

(高橋副委員長) ありがとうございます。

テレビコマーシャルはやっぱり、お金もかかることなので何かの機会があれば、やっていただければそれにこしたことはないと思います。それとあと、常務がおっしゃられたように星座の森とマッチングというか、それは非常に新しい試みで、とてもいいことかなと思います。この辺はただ市当局の方の事情もあるかと思うんですけれども、私が伺ったときにはちょっと、飲料水の関係でいろいろ問題があるやに聞いております。その辺も、市の方の対応も期待しながら、そういう、修学旅行とのマッチングとかそういうのは非常にいいなと思いました。

それが1点と、実は私、従前、森林環境譲与税を使って、都市部からの集客をいろいろやったらどうなんだろうなあ、なんていうこともずっと構想の中にありまして、例えばですけれども、新幹線で水沢江刺駅について車で迎えに行くと、藤原の郷に来てもらって研修をして、というような、そういうところの、なんていうんでしょうかね、営業といいますか、そういうことの運営をもし、例えば委託みたいな形でされたとすれば、やりようだと思うのですが、対応はできるものではないかな。この部分は参考まで結構です。

(飯坂委員長) 伊藤常務取締役。

(伊藤常務取締役) 都会から来た方々が、田舎を楽しむというのは、私も委員さんと同じで大切だと思っています。その中で、星座の森に行って、野鳥の観察をしたり、植物を観察したりということもいいと思うのですが、例えば、ツリークライミングというんですかね、トレッキングツアーとか、そういうものを考えるわけです。もう少し星座の森自体も、もう少し魅力が増すのかなと思っていますので、今ある施設の周りにハイキングコースみたいなものを少し整備できれば、都会の人を、自信を持って呼べるのかなと。

コマーシャル等々については、その通り今後もやっていきたいと思っていますので、各

新聞社等々には記事として載せてくれと、1回載せてもらった新聞社には、今度はPRとして載せてもらうとして、様々マスコミとのやりとりをしながら、今後進めてまいりたいと思います。

(飯坂委員長) 菅野委員。

(菅野至委員) 菅野と申します。よろしくお願いします。

ご説明ありがとうございました。あとはいつも藤原の郷さんには、鹿踊りの公演とか様々お世話になっております。私も、藤のライトアップの時は昼間も来て夜も来たのですが、昼間は昼間ですごく綺麗で、夜は夜でライトアップされた藤がすごく綺麗で、すごく感動して、子どもたちも一緒に来たんですけれど、すごく喜んだので、ああいった事業というのは、続けて行っていただきたいなというふうに思っております。

それで、質問についてはなんですが、まずイベントについてなんですけれども、2ページ目のところの表で見ますと、2019年から2022年のところで、コロナの影響でイベントが減っているところであるかとはございますけれども、例えば2019年と2022年に共通する、残っているイベントがあるかと思うのですが、その中で例えば2019年の春でいいますと、春爛漫ライトアップ、ドラえもんショー、コスプレ、お茶会とか現在では無くなっているイベントがあったと思います。そういったものというのは、残すべきもの、ちょっとコロナだから外すべきものとかという、そういう何かこう考えの下でこういった、残っているイベントがあるのかな、というところをお伺いしたいと思いますし、個人的な質問で大変恐縮なんですけれども、鹿踊りの公演をする時としない時との、例えば来場者数が違いますとか、そういったことはありますかという、すいません。個人的な質問で申し訳ないのですが、答えられる範囲でよろしいですので、よろしくお願いします。

(飯坂委員長) 伊藤常務取締役。

(伊藤常務取締役) 藤のライトアップに来ていただきまして、大変ありがとうございます。

イベントにつきましては、新型コロナウイルス感染前と後でやっぱり変えております。というのは、感染後は、なるべく人を集めるのですが、制限がつきます。例えば今までは無制限に入ったものを、その半分以上といいますか、屋外で、半分以上にするとか、そういう取組をしていました。

費用対効果がありまして、2019年は、ドラえもんショーとアンパンマンショーの2つをやったのですが、アンパンマンショーはかなり人気がありますので、2022年度については、ちょっといろんなことがございまして、まずはアンパンマンショーでしようとか、その費用対効果も考えながら、イベントを決めております。

いずれここにおいてもコロナ禍でございますので、国の方といいますか、方針がどうなるかによって、人数をある程度制限してやった方がいいのか、どんなにできるかというのがありますので、その辺を見極めながら、企画をしていきたいなというふうに思っております。

鹿踊りについては、大変ありがとうございます。目的は二つございまして、藤原の郷の入場が一つ、もう一つは、江刺にあります鹿踊りの伝承、これが一つの、大きく二つの目的があります。実際に、鹿踊りの公演のために来るのかなというのが、それが2倍3倍とはいきません。実際には、すごく効果があったと言えば、そうでもないんです。ただ、ただですね、それを見にわざわざ来る方も結構います。実際はそうです。それが1日に100人200人とかっていうのではないんですけれども、本当に好きで好きで毎回来ている方もおりますし、ですから、すごく入場に関しては、うちの方としても、大変ありがたく思っております。効果はありますので、今後もよろしくお願いします。

(飯坂委員長) 菅野委員。

(菅野至委員) ありがとうございます。鹿踊りに関しましては、江刺の中の団体がそこで年2回公演できるという機会をいただいているというのは、すごくやっぱり自分たちの芸事に対する誇りであったり、すごく勉強になったりとか重宝されていることだと思いますので、

これは引き続き、続けて行っていただきたいなと思っております。

あとは、減らすというところは、そういったいろいろその費用対効果だったりとか、人数制限の関係だったりとかというところがあるかと思いますが、この後また色々な国とかの政策が今後変わっていきながら、ライブ開催できれば、またそれに伴ってイベントが増えていくものだと思いますので、そこはもう今でもすごくいいイベントをしていただいていますので、そこはもう期待しながら待ちたいなと思っております。

(飯坂委員長) 小野寺委員。

(小野寺重委員) 私どもも、藤原の郷さんから、時折折りの行事の案内を頂戴しているのですが、私どもまで案内してくれるんだなあと、そういう思いを持っていました。そういう中で今回、状況をお聞きしまして、コロナの関係で落ち込みはあったものの、個人（入場）の関係については、ほぼ回復している。残るは、団体入場の人数、これを元に戻せば、前と同じような仕組みになると、こういうことで、まだまだコロナが収束したわけでもありませんし、コロナの状況は、本当に、岩手県でも、千人も2千人も発生するような状況の中で、こういう数字は、皆さんがそれなりに頑張っているんだなということが分かりました。

この中身については、私はよく分かりませんが、職員が何人いて、どういう状況になっているか、分かりませんが、やっぱり事業には、自ずから限界というものがあって、私いつも思うんですけど、やれやれと言ったって、どこまでも伸びていくものでもないでしょうし、この施設規模の中、まずは、コロナ前に返れば、上出来なんだろうと。これ以上頑張らなくてもいいんだとは言いませんけれども、やっぱりやればやるほど、もちろんコストもかかりますね。その辺の限界というか、というものを、やっぱり見極めながら、それなりに評価されるような経営をしていくべきなのかなと、そんなことを思っております。

そういう中で、これからPR活動に力を入れますよと、こういう中身ですけど、やっぱり学校、近場の学校、子どもたち、もうそういう誘客のためにも、やっぱり学校なんかも、やっているんだろうと思うのですが、やっぱり学校には学校なりの考えというか、思いがあると思うんです。ですから、こちらにだけ合わせてもらうというのではなく、やっぱりそちらにも合わせて行くようなイベントなり、経営方針というか、行事の仕方、そういうものも、やっぱり一度別の角度からも検討してみる必要があるんじゃないかと、そんなことを思っておりますね、その辺についても何かあればコメントをいただきたいと思います。

(飯坂委員長) 伊藤常務取締役。

(伊藤常務取締役) ご意見大変ありがとうございました。参考にさせていただきたいと思えます。学校との関係につきましては、どちらかといえば、郷土文化館があるんですね。そこに大体市内の小学校の3年生ですかね。たまたま授業と同じような内容が展示されていますので、結構来ているんですね。ですから、郷土文化館に来た方々が、ちょっと藤原の郷の方に寄って、違った歴史を学んでいくことがですね、そういうことも一つの考え方なのかなというの、ちょっと考えさせていただきました。

なかなか学校との連携のイベントというのは、難しいところがあるんですけど、まずは、郷土文化館をきっかけとしながら藤原の郷にも来ていただくということも考えてみたいと思っています。イベント等につきましては、やはり費用対効果もございまして、あとその周りの評価等もございまして、だから人気のないものについては少し止めていくと、新しいものを増やして、ということもやっぱり考える必要があるというふうに思います。

ただ、定期公演につきましては、鹿踊りの定期公演とか、語りべ等につきましては、これはちょっとしていきたいと思えます。ありがとうございました。

(飯坂委員長) 瀬川委員。

(瀬川貞清委員) 一つだけ落としたのですが、地域おこし協力隊というのがありまして、一つのミッションとして藤原の郷に関わっての協力隊の隊員がいたときがあったのですが、一定の反省等も当局はあるそうなのですが、今ちょっと時期がずれていますけれども、協力隊に

ついで、何と申しますか、感想というか、例えば実績とか、そういうのはどういうふうに考えられているのかなと、話せるところがありましたら聞きたいです。

(飯坂委員長) 伊藤常務取締役。

(伊藤常務取締役) 協力隊の方と会って名刺交換をする程度で、中身をよく私もわからないのですが、ただ一生懸命自分たちはこういうことをやってみたいとか、そういうことはわかっております。

例えば今年であれば、藤原の郷の園内に、風鈴を、コーナーコーナーに設置していただいたんですね。そういう発想が我々にはなかったということですから、そういう面ではかなりいい面に捉えております。

皆さん、今日は(春樹)議員さんもおりますが、南部鉄瓶とか風鈴のPRもできますし、それをやったことによってインバウンドの方々にも販売ということもありますし、インバウンドに対して、ちょっと話がずれますけれども、鋳物組合さんと協力しながら、レストハウスに鉄瓶を設けているのですが、再度来たときに売ろうとして設置した経過があるんです。ちょっと高かったのですけれども。ところがやっぱり重いというのがありまして、思ったより売れなかったな、ということもございました。

ですから、例えばさっきお話ししました風鈴とか、そういう提案すればそれは持って帰れますから、そういう面では地域おこし協力隊としていい発想なので、イベントをやっていただくことは何かないかなあというふうに思っていますので、会社としては評価しております。

(飯坂委員長) 副委員長。

(高橋副委員長) すいません、先ほどちょっと質問を忘れたのですが、実は今度定例会の予算の中で、越路スキー場の補正予算とかが入っているのですが、越路スキー場が休止ということで、なっているところなのですが、何かイベントのようなものを考えているやに、担当課の方からもちっと聞いているのですが、もうちょっと踏み込んだ内容をもしご提示できる部分があれば、その辺をお尋ねしたいのが1点と、あと、どちらにしましても開発振興さんがやっぱり先ほどの星座の森等も、やっぱり一緒に営業されている。冬季間のスキー場の、今までは星座の森にいた人たちがスキー場という運用をされていると思うのですが、そういう方たちの新しいその仕事の内容とか業務のところがですね、範囲はどういう感じに変わったのかとか、これからどういうふうな対応をされるのかということを含め、お考えがあればおたずねしたいのが1点。

あとは、先ほど来伝えているように、開発振興さんがやはり星座の森をやっているということであれば、先ほど質問にまた戻るようですけれども、マッチングした、包括的な営業ということも、踏み込んで考えられるのかなと思いますし、その辺のお考えをまた改めてお聞かせいただいて終わります。

(飯坂委員長) 伊藤常務。

(伊藤常務取締役) 分かる範囲内でお答えさせていただきます。越路スキー場が休止になったということは、市の方から聞いております。

ただ会社としては、取締役会の方でスキー場の運営については、もうやらないということで、承認といいますか、決裁いただいておりますので、そのスキー場に関しては、そういう運営等はやらない。ただ、今まで会社として越路スキー場の運営をやってきた経過もございましたので、様々においては協力はしますよというお話はしてまして、イベントの内容についてはまだ、実行委員会が後で開かれるとは聞いていましたので、まだ内容については、承知しておりません。

星座の森とスキー場の関係、まさにその通りでございまして、夏の期間については星座の森、冬期間についてはスキー場ということで、星座の森の社員がスキー場に行くというシステムでやってきました。今回、休止になったことによって、実際、アルバイト除きの社員、その方が5人いまして、その方については働けるうちは星座の森で働いてもらいますよ。草

刈とかですね。枝払いとか。雪が降った場合については、会社の方に来ていただいて、園内の様々な枝払いから例えば椅子のペンキ塗りとか様々な業務があるんですね。ですから、企画業務部の社員と一緒にそういう業務をやっていくというふうに考えていました。あと場合によっては12月になりますと、クリスマスオードブルとか、年末のオードブルの販売とか、様々そういう事業がありますので、そちらの方の協力をさせていただく。いずれ、社員はそのまま継続して雇用するという事で、現在は考えています。

(飯坂委員長) 最後に私の方から三つほど質問させていただきますが、様々なところとの連携が出されておりますが、正法寺とは、どういう考え方、或いは状況、どんなふうになっているのか、正法寺との連携について教えていただきたい。

二つ目ですが、今日は市民のある方から事務局に電話があつて、藤原の郷さんにこれから行くと言った時に、民俗芸能をもっとやって欲しいというような要望があつたようです。先ほどらい鹿踊りの話が出ておりますけれども、こういった民俗芸能について、地元だったり、団体から要望があつたときに、受け入れるとか、そんな考え方があるのだからどうか、或いはこれまでそういったことがあるのか、費用対効果を考えながらやっていくのか、この民俗芸能をもっと進めるという考え方について教えてください。

あと最後ですけれども、国の方でインバウンドを進める上で、東北全体でセールスをしていく必要があるということを、国の方では考えております。それはもう当然のことだとは思いますが、東北全体が増えれば、それに伴って、藤原の郷さんも増えるということであればいいのですが、やはり相応の工夫、努力をしていかねばならないんじゃないかなと思ってます。東北デスティネーションキャンペーン、なかなか恩恵がないということも言われておりますので、東北全体がこう動いても、恩恵がなければ、どうかということもあります。この東北全体でセールスする、それについての考え方とか教えてもらえればと思います。

では、伊藤常務取締役。

(伊藤常務取締役) お答えいたします。正法寺の詳細の関係については、佐藤室長からお話させていただきますが、奥州市の観光物産協会さんの事業として、正法寺さんと藤原の郷のつながりはかなり強く、具体的には、様々な事業があるわけですが、それについては、佐藤室長からお話させていただきます。

民俗芸能につきましては、なかなか難しいところがありまして、鹿踊りについては、ある程度いっぱい団体がありますので、定期的に無理なく参加していただいておりますんですが、ただ民俗芸能になりますと、1団体2団体ということになりますので、なかなかやるのは難しいということになります。ただ、拒むものではなくて、ぜひ藤原の郷でやってみたくとか、そういう場合についてはお手伝いしながら会場を使つていただいて、民俗芸能を皆さんに披露していただいて、というようなことがあります。最近では、太極拳の練習というんですかね、あとはヨガ教室をですね、伽羅御所でやったり、なんていいですか、違ったところでやりたいんですね、体育館とかなんかじゃなくて、平安時代の建物の中で、その景色を見ながらヨガをやって、新鮮な気持ちになりますよというのは。早い時間ですけども、開館のちょっと前に、というのも増えてきております。

ですから、民俗芸能については、そういう希望があれば、ぜひお話していただければ、藤原の郷といたしましては、できる限り協力していきたいなと思ってます。東北DCについては、なかなかやっぱり難しいんですね。コースが別々ですし、その内容も別々ですし、どちらかと言えば、災害復興といいますか、そちらの方が強くなってですね、岩手県の観光、どちらかと言えばそういうことです。沿岸地域を重点的にPRしようというもので、どうしても中の方に入つてこないというのが、ちょっと私個人的には不満なところがあります。ただ、やはり平泉と藤原の郷、もう少し連携しながら、そしてあと、泊まる場所、先ほどお話ししましたが、市内のそういうホテルでもいいし、ひめかゆ温泉もありますし、市内の薬師堂ですか、様々ありますので、そういう温泉とも協力しながらやっていけば、イ

ンバウンドももう少し来易くなりますよとなりますし、岩手県は岩手県で進めておりますし、東北DCは東北DCで進めますが、そちらの方にももちろん藤原の郷は関連して、積極的にやっていますが、いずれ効果がありそうなところを少し選びながら、会社としては少し進めていきたいなというふうに考えております。

正法寺の関係については、佐藤室長。

(飯坂委員長) 佐藤総合広報室長。

(佐藤総合広報室長兼セールス推進室長) 正法寺との連携、これまでの連携につきましてですが、東議員がかつて奥州市観光物産協会の専務理事でいらっしゃったときから、コロナ禍ではありましたが、エンジョイジョイントキャンペーンということで、正法寺と藤原の郷の共通入場券。ごめんなさい、正法寺の入場券、それから藤原の郷とえさし郷土文化館の共通入場券だったりを購入していただいて、正法寺に、藤原の郷、郷土文化館の共通入場券を置いていただいて、藤原の郷では、正法寺の入場券を置いて、お互いにどちらかの入場券を買った方にプレゼントして、両方を周遊回遊していただきましょうという企画を立てていただきまして、そこから連携性が深まったというところがきっかけでございます。それも経ながら、継続して、昨年も行っていたかきまして、継続して、来年度はちょっとまだ見通しが立たないんですが、これまでは2回ほどお世話になっております。

そんなこんなもありまして、奥州市の商業観光課とも連携を濃くさせていただいております。旅行商品造成事業というのを展開させていただきました、今年度。残念ながらちょっと商品は発売をさせていただいたんですけども、実績ゼロというところでは終わってしまいましたが、これをこれで終わらせることなく、第2弾、次の商品を考えまして、泊まりは今のところプラザイン水沢というところが限定的にはなるんですけども、そこを起点に宿泊を伴う旅行商品、正法寺だったり藤原の郷、また奥州市内の観光地を素材として、一つの1泊2日のコースで、展開できるような魅力のある、季節に応じた旅行商品なども、作っていければなど。それが正法寺との連携にも繋がりますし、ひいては、広く言えば、奥州市内の観光地とも連携をとっていけるのかなと。ちょっと発展しましたが、そんなところで正法寺との連携は、とっているつもりでございます。

(飯坂委員長) ありがとうございます。時間もあれですので、このあたりで、質疑の方を終わりたいと思います。それでは引き続き、園内の視察をいたします。少し休憩時間を取りまして、それでは、2時50分に入場ゲートの方に集合とします。本当にありがとうございました。

～～休憩～～

(2) 現地調査

佐藤総合広報室長兼セールス推進室長が運転するゆめひら号に乗車し、伊藤常務取締役の説明で園内を視察した。

4 協議（昼食時間に実施）

(1) 閉会中の所管事務調査について

提案どおり承認されたが、今後は「産業振興」の他に、具体的調査項目も挙げることを確認した。

(2) その他

12月中の今後の予定を確認した。

5 閉会

(高橋副委員長) 以上で産業経済常任委員会の所管事務調査を閉会いたします。ご苦労様でし

た。

〔署名〕 奥州市議会産業経済常任委員会委員長
